

平成 22 年 4 月 10 日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間： 2007～2010
課題番号： 19330020
研究課題名(和文)自動車事故に係る責任と保険に関する総合的研究

研究課題名(英文) Study on the Liabilities and Insurance with respect to Automobile Accidents

研究代表者

山下 友信 (YAMASHITA TOMONOBU)
東京大学・大学院法学政治学研究科・教授
研究者番号：10107485

研究代表者の専門分野：商法

科研費の分科・細目：民事法学

キーワード：自動車事故、損害賠償責任、不法行為、責任保険、自賠責保険

1. 研究計画の概要

現在の運行共用者責任という特別不法行為責任と自賠責保険という強制責任保険による賠償資力確保とから構成されている自動車事故に係る責任と保険のシステムは、自賠法制定後50年余を経ており、自動車交通は立法当時前提とされていたものからは大きく変化し、この間判例や実務がこの変化に対応してきたが、近時は自動車交通にコンピュータと情報化を利用したITSとよばれる高度なシステムの導入が進められるなど、今後さらに大きな変化が生ずることが予想される。本研究は、このような状況を踏まえて、自賠法と自賠責保険を中核とする責任と保険のシステムについて総合的に問題を洗い出し、これを解決するための立法その他の提言をすることを目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1)4年の研究期間の第1年次においては、自賠法3条の運行供用者責任等の損害賠償責任に関する判例や実務、自賠責保険・任意責任保険・人身傷害補償保険など自動車事故に関する保険に関する判例や実務について幅広く資料収集等を行い、そこから現行の責任と保障のシステムについてどのような問題があるかを洗い出した。とりわけ、近時被害者に対する損害補償の手段として大きな意味を持ちつつある任意保険の中の人身傷害補償保険について、保険給付を行った保険者が加害者に対して保険代位により取得する損害賠償請求権の範囲について、丁度この時期に立場の異なる裁判例が相次いで実務に混乱が生じつつあったことから、この問題の解決のあり方を検討し、解決の方向を提言し、

これは裁判例や実務によっても受け入れられつつあるところである。

(2)第2年次においては、特にコンピュータと情報通信技術を用いた高度道路システム(ITS)が進展することにより自動車事故に係る責任と保険のシステムにどのような影響が及ぶかの検討を、とりわけこの点での検討が進んでいるEUにおける近時のITS政策を詳細にフォローし、わが国のITSに関する法制度のあり方に対する示唆を得た。また、ITSに関わる理系の学会のシンポジウム等にパネラーとして参加し、意見交換に努めた。

(3)第3年次においては、第1年次・第2年次の研究成果を踏まえて、自動車事故に係る責任と保障のシステムを構成する諸要素としての、運行供用者責任や自賠責保険などの現行法の規律や立法論的に考え得る規律について、理論的な分析を行い、今後ITSが一層進展する状況下では現行の規律は適切でなくなりつつあり、自賠法の改正や自賠責保険など保険のあり方の変更などが望ましいという方向性を得るに至った。

3. 現在までの達成度

おおむね順当に進展している。

(理由)

当初の4年間の研究計画において各年次の課題としていた作業は、概ね遂行しており、また、その時々に関連して生じている実務的な問題についても積極的に研究作業に組み込んで作業を進めており、研究成果も随時論

文等により公表していることから、全体として、順調な達成度にあると考えられる。

4. 今後の研究の推進方策

最終年次においては、3年間の研究の成果を踏まえて、研究計画に記載していたとおり、自動車事故に係る責任と保障のシステムについてのあるべき姿を、立法的な提言や保険等のあり方の提言としてとりまとめる作業を行うこととする。この作業の成果は論文としてとりまとめることとなる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

山下友信、保険法制定の総括と重要解釈問題(損保版)、損害保険研究、71巻1号、25頁~65頁、2009 査読無

山下友信、保険法制定の総括と重要解釈問題(生保版)、生命保険論集、167号1頁~43頁、2009、査読無

山下友信、自動車事故に関する損害賠償と保険の課題、日弁連交通事故相談センター編・交通事故損害額算定基準-実務運用と解説-(21訂版)、307頁~339頁、2008、査読無

山下友信、人身傷害補償保険の保険給付と請求権代位、保険学雑誌、600号、121頁~134頁、2008、査読無

山下友信、EUのITS推進政策の動向、損害保険研究、70巻3号、1頁~21頁、2008、査読無

[学会発表](計1件)

山下友信、高齢化社会に求められるITSとその課題、ITS Japan 第7回ITSシンポジウム、2008年12月4日、日本大学生産工学部